

令和4年度

学校関係者評価報告書

令和5年3月

独立行政法人国立病院機構

都城医療センター附属看護学校

平成 19 年 10 月学校教育法施行規則改正により「自己評価」の義務化と「学校関係者評価」の努力義務化が規定された。

令和元年度より自己評価結果の客観性と透明性を高め、本校と密接に関係する方々との理解促進や協力連携による学校運営の改善を図ることを目的に学校関係者評価を実施しており、令和 4 年度も実施したので報告する。

## 1.学校関係者評価委員会

### 1)学校関係者評価委員

- 小川淳子 (学校法人日南学園日南看護専門学校校長)
- 中山秋子 (一般社団法人藤元メディカルシステム藤元病院看護部長)
- 山崎幸江 (同窓会白埴会元会長)
- 平井良子 (同窓会白埴会元副会長)
- 工藤智子 (在校生保護者)

### 2)事務局

- 吉住秀之 (都城医療センター附属看護学校学校長)
- 石原史絵 (都城医療センター附属看護学校教育主事)
- 草原麻紀 (都城医療センター附属看護学校実習調整教員)
- 小倉裕香 (都城医療センター附属看護学校学科調整教員)

## 2.評価対象期間

- 自：令和 4 年 4 月 1 日
- 至：令和 5 年 3 月 31 日

## 3.実施方法及び公表

学校で取り組んだ自己評価を「自己評価結果」として冊子にまとめ、学校関係者評価委員に事務局より配布・説明を行った。学校関係者評価委員会にて、評価基準に基づき評価項目ごとに評価を実施した。その結果を報告書としてまとめ、学校ホームページにて公表する。

## 4.評価項目及び評価基準

### 1)評価項目

- (1)重点目標
- (2)教育理念
- (3)学校運営
- (4)教育活動
- (5)学修成果

- (6)学生支援
- (7)教育環境
- (8)生徒の受入れ募集
- (9)法令等の遵守
- (10)社会貢献・地域貢献

## 2)評価基準

- ・適切(実施)
- ・ほぼ適切(概ね実施)
- ・普通(問題や課題があるが一通り実施)
- ・やや不適切(少し実施)
- ・不適切(実施していない)

## 5.評価結果

### 項目 1 重点目標

評価 適切

- ・昨年度の評価から、目標設定され取り組まれていることが変化につながっている。
- ・学生の学校評価項目「わかりやすい授業が多い」が低い。これまでであれば、学生の表情から反応を捉えて授業を展開していた。コロナ禍でマスクをしていると表情がわかりにくいこと、グループ学習が制限されたことが影響している。
- ・教員の働き方改革について、教員の勤務体制として複数の勤務時間を活用し超過勤務を削減できている。
- ・保護者との関わりについて、成績の発送、必要時の面談実施、学校生活の情報提供を行っており、保証人への説明・対応ができています。

### 項目 2 教育理念

評価 適切

- ・アドミッションポリシーは看護師に求められることでもあるが、一般常識としても必要なことであり大事である。
- ・アドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーと大変分かりやすく表現されており、学生も理解しやすい。また、新カリキュラムとも連動しやすい内容となっている。

### 項目 3 学校運営

評価 適切

- ・学校運営を組織的に動かしている。昨年度の課題を今年度は課題解決にむけて取り組まれており、学校運営に動きを感じる。その点において、学校関係者評価を毎年実施していることの意味があると感じる。
- ・学校紹介に関して、出前講座として中学校に行っていることは評価できる。看護学校の存在をしらない中学生にPRを行うことに意味がある。

#### 項目 4 教育活動 評価 適切

- ・授業科目評価において、前年度低かった「社会学」が 0.8 点上昇している。昨年度、学校評価で意見した内容が反映され、成果が上がっている。
- ・新カリキュラムになり、実施・評価を適切に行い課題が明確にできており、カリキュラム評価が行えている。

#### 項目 5 学修成果 評価 ほぼ適切

- ・就職率として、重点目標に掲げた目標値は達成できていないが、就職を希望した学生は 100%就職できしており、第 1 希望の施設に 100%合格できている。進学者は進学目的が達成されている。
- ・進学希望者が不合格だった場合、就職へ切り替えた学生への就職支援が行えている。

#### 項目 6 学生支援 評価 適切

- ・スクールカウンセリングについて、学生は負のイメージを持っていることが多いため、4月に講師やスクールカウンセリングの紹介を行うのはとても良い。
- ・3年生が実習、就職・進学試験、国家試験受験等多重課題になる時期にカウンセリングを実施している。教員ではなく専門家から意見をもらうことはとても大事なことであり、3年生だからこそ集団カウンセリングを実施していることは良いと思う。
- ・カウンセリングへの参加者数としては少ないが、全国専門学校の休学・退学者の平均は全体の 1 割であることを考えると、休学・退学者が少ないので問題ないと思う。

#### 項目 7 教育環境 評価 適切

- ・専門書が増え、図書の充実が図られている。
- ・今年度、防災教育として災害時の備えを実施している。学生自らが備蓄の準備しており、意識づけができてきている。

#### 項目 8 生徒の受入れ募集 評価 適切

- ・入学試験応募状況は、R5 年度は 13 名増となっている。
- ・学生募集に関して、親の意向が強く影響するため保護者向けの学校説明会など情報提供する機会を設けるとよい。
- ・高校では、オープンキャンパスのチラシ掲示が少なく、情報を得ることが困難である。チラシ発送数を多くし、目に入る所に掲示して貰えるようにするとよい。
- ・OB もオープンキャンパスでの説明など、協力できることは協力したい。
- ・中学生にもオープンキャンパスの案内を送り、参加してもらえるよう工夫する。

#### 項目 9 法令等の遵守 評価 適切

- ・法令に基づき調査、報告、申請が計画的に行われている。

- ・コロナ禍ではあったが、昨年度と違い学生自身が取り組めるボランティア活動を考えて「タオルキャップ作成」や「募金活動」等行っていることは評価できる。
- ・感染状況が落ち着いている時期には、三股町のボランティアに参加している。都城でのボランティア活動もあるため都城市社会福祉協議会に問い合わせ積極的に参加してほしい。ボランティア活動には、中学生や高校生も参加するため、学校の PR にも繋がると思う。
- ・コロナ禍で学校教育の現場も大変な中、教員の教育研修を 6 名受け入れていることは地域貢献につながっている。
- ・宮崎県の実習指導者講習会においても 3 名の教員が講師として参加している。臨床の指導者を育成することに繋がり、宮崎県の看護教育に貢献していると感じる。

## 6.総括

今年度は、9 項目が「適切」、1 項目が「ほぼ適切」の評価であった。特に社会貢献・地域貢献に関しては、コロナ禍でできるボランティア活動を工夫し実践したことにより「普通」から「適切」へ改善した。生徒の受入れ募集に関して、高校訪問校を増やしたことやオープンキャンパス内容を改善したことにより受験者数の増加がみられ「ほぼ適切」から「適切」へ改善した。今年度の学校関係者評価結果より、以下 4 点の課題が明確になった。

- ①学生募集に関して、中学生から取り込むこと、保護者向けの学校説明会開催、地域ボランティア活動等を通じて地域への学校 PR を図ること。
- ②引き続き保護者との連携・協力を図り、学修成果を出すこと。
- ③学生の状況に合わせたスクールカウンセリングの在り方を検討し、学生支援を図ること。
- ④引き続き NHO 就職・宮崎県内就職へ向けた支援を行うこと。

令和4年度 自己評価結果



